

令和6（2024）年度第1回 栃木県地域医療対策協議会	資料5
令和6（2024）年8月7日（水）	

地域医療ニーズに応える地域枠医師の 育成体制構築に係る意見交換会結果

栃木県保健福祉部医療政策課
とちぎ地域医療支援センター

地域医療の確保・維持に向けた今後の方向性（案）

現状と課題

- 地域枠医師数は年々増加しているものの、診療科選択の広がりに伴って地域の派遣ニーズ（特に内科系）とに大きな解離が生じている。
《参考》内科医
令和6年度派遣希望 43名
地域枠医師 23名（専攻医を含む）
- 働き方改革の推進により時間外労働の縮減・短縮が求められる中で、日当直体制の維持や救急医療の確保に支障を来す医療機関が今後益々増えることが予想される。

当面は地域枠医師の診療科選択の制限を行わないことを前提とする中で、県としては、専門性を有しつつもプライマリケアや救急等にも対応し地域医療に貢献できる地域枠医師を育成することを目指したい

今後の方向性

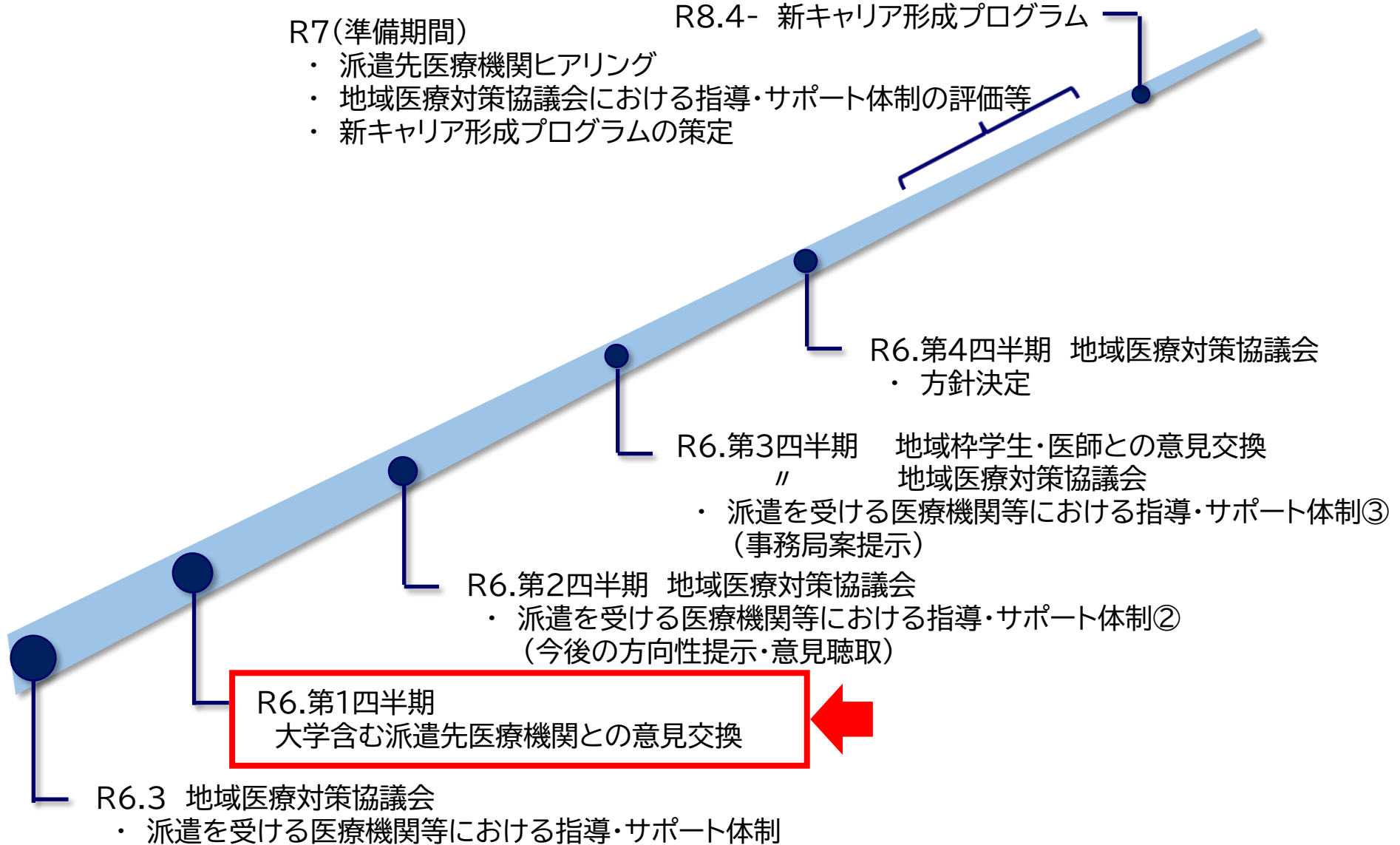
専門診療科によらずプライマリケア、救急等に対応できる地域枠医師を育成し、当該医師が派遣先医療機関において内科初診外来、救急当番、（全科あるいは内科・外科系）日当直等に携わることで、地域医療を確保・維持していく。

検討の進め方

R7(準備期間)

- ・ 派遣先医療機関ヒアリング
- ・ 地域医療対策協議会における指導・サポート体制の評価等
- ・ 新キャリア形成プログラムの策定

R8.4- 新キャリア形成プログラム



御意見を伺いたいこと

I 大学病院

専門性を有しつつ、プライマリケアや救急等にも対応し地域医療に貢献する地域卒医師を育成していくための取組としてどのようなことが考えられるか。

- 臨床研修中
(案) 地域の臨床研修病院とのたすきがけによる内科・救急等の重点的な研修
- 大学での専門研修中
(案) 週1回程度の内科・救急研修、救急当直等の定期的な参加

II 地域の派遣候補医療機関

専門診療科によらず内科・救急等の基本的な診療能力を維持できるようにするため、また、安心して内科初診外来、救急当番、(全科あるいは内科・外科系)日当直等に従事できるようにするための取組としてどのようなことが考えられるか。

- (案) 専攻医に対する週1回程度の内科・救急研修
- (案) 専門診療科以外の診療に従事する際の院内サポート体制の整備

III 全体

臨床研修修了後(卒後3年目)に地域の中核医療機関において1年間の内科もしくは外科での従事を求めることについてどのように考えるか。

内科初診外来、救急当番、(全科あるいは内科・外科系)日当直等の従事を想定しており、救急科の従事も要検討